第20講 「先従隗始」・「蘇武持節」

一　文章を読んで、次の問に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

昭(注)王招カントス二賢者ヲ一。隗(注)曰(い)ハク、「古(いにしへ)之君ニ、①有リ下以ツテ二千金ヲ一使ムル三涓人(注)(けんじん)ヲシテ求メ二千(注)里ノ馬ヲ一者上。買ヒテ二死馬ノ骨ヲ五百金ニ一而返ル。君怒(いか)ル。涓人曰ハク、『死馬スラ且ツ買フレ之ヲ、X 生ケル者ヲ乎。馬今ニ至ラント矣ト。』不(ず)シテ二期(注)年一、千里ノ馬至ル者(もの)三。今王必ズ欲セバレ致(注)サントレ士ヲ、先(ま)ヅ a従リレ隗始メヨ。②況ンヤ賢ナル二於隗ヨリ一者、豈ニ遠シトセン二千里ヲ一哉ト。」

b於レ是昭王為ニレ隗ノ改メテ築キテレ宮(注)(きゅう)ヲ、師二事ス之ニ一。於レ是士争ヒテ趨(おもむ)クレ燕(えん)ニ。

（『十八史略』）

注　昭王…戦国時代の国、燕の君主。　隗…燕の賢者、郭(かく)隗。　涓人…君主の側で雑用をする人。
千里馬…一日に千里の距離を走ることができる名馬。　期年…まる一年。　致士…賢者を招く。
宮…邸宅。

問一　傍線部ａ・ｂの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

ａ＝

ｂ＝

問二　空欄［Ｘ］に入る漢字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　而　　イ　如　　ウ　況　　エ　惟

問三　傍線部①・②をそれぞれ現代語訳せよ。

①＝

②＝

★「**隗より始めよ**」＝

↓

二 文章を読んで、次の**問**に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

武帝天漢元年、遣中郎将蘇武、使匈奴。単于欲降之。幽武置大窖中、絶不飲食。武齧雪与旃毛、幷咽之。数日不死。匈奴以為神、徙武北海上無人処、使牧羝曰、「羝乳乃得帰。」

昭帝始元六年、蘇武還自匈奴。武初徙北海上、掘野鼠去草実而食之。臥起持漢節、節旄尽落。李陵謂武曰、「人生如朝露、何自苦如此。」陵与衛律降匈奴、皆富貴。律亦屢勧武降。終不肯。漢使者至匈奴。匈奴詭言、「武已死。」漢使知之言、「天子射上林中得雁。足有帛書云、武在大沢中。」匈奴不能隠。乃遣武還。武留匈奴十九年。始以強壮出、及還鬚髪尽白。拝為典属国。

（『十八史略』）

注　武帝…前漢第七代の天子。　天漢…年号。　中郎将…天子の護衛にあたる司令官。使者にもなる。
蘇武…前漢の人。　匈奴…中国北方の騎馬民族。秦・漢と争う。　単于…匈奴の王。
幽…閉じ込める。　大窖…大きな地中の穴。　旃毛…毛織物の毛。　神…不思議な力を持っている者。
北海…今のシベリアのバイカル湖。　羝…雄の羊。　乳…ここでは「子羊を産んで乳を出すようになったら」の意味。
昭帝…前漢第八代の天子。　始元…年号。　去…取り込む。　漢節…漢の天子より授けられた使者としての印。
節旄…漢節の旗印として付けていた旄牛(ぼうぎゅう)の尾の毛。　李陵…前漢の武将。匈奴と戦って降伏する。　衛律…前漢の武将。
上林…漢の都の長安にある天子の庭園。　帛書…絹に書いた手紙。　大沢…大きな湿地。ここでは「北海のほとり」のこと。
強壮…男盛り。　鬚髪…顎ひげと髪の毛。　拝…任命する。　典属国…少数民族対策にあたる官名。

問一　傍線部a～fの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝　　　b＝
c＝　　　d＝
e＝　　　f＝

問二　二重傍線部「使」は、動詞「使ひす」である。この一文での読み方を送り仮名に気をつけて、送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

問三　傍線部①・②をそれぞれ現代語訳せよ。

①＝

②＝

問四　傍線部③を書き下し文にせよ。

★「雁書（がんしょ）」「雁信（がんしん）」「雁帛（がんぱく）」＝

〈Memo〉

第20講　確認問題

① 「隋田・楊与二鄭法士一倶以レ能レ画名。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

（隋田（ずいノでん）・楊（やう）与（ト）二鄭法士（ていはふし）一倶（ニ）以（テ）レ能（クスルヲ）レ画（ヲ）名（アリ）。）

注　田・楊・鄭法士…隋代の画家。

ア　あづかりて　　イ　より　　ウ　くみして
エ　と　　オ　あたへて

② 「如此」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もしこれだとしても　　イ　このようだ
ウ　どうだろう　　エ　どうすればよいか
オ　これには及ばない

③ 「雁書」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　手紙　　イ　説明書　　ウ　契約書
エ　達筆　　オ　悪筆

〈Memo〉

第20講　解答

一

問一　a　より　　b　ここにおいて

問二　ウ

問三　① 千金で君主の側で雑用をする人に、一日に千里を走ることができる名馬を買いに行かせた者がいた。
② まして隗よりすぐれた者が、どうして千里の道を遠いと思うだろうか、いや、思わない。

★ **「隗より始めよ」**＝賢者を招くなら、身近な者から優遇せよ。⬇言い出した者から実行せよ。

二

問一　a　とを　　b　より　　c　ことごとく
d　ごとし　　e　ついに　　f　あたわず

問二　つかいせしむ

問三　① 匈奴は不思議な力を持っている者と思って
② どうして自分からこのように苦しんでいるのか

問四　武をして還らしむ。

★ **「雁書」「雁信」「雁帛」**＝手紙。

〈現代語訳〉

一

昭王がすぐれた人物を招こうとした。郭隗が言うには、「昔の君主に、千金で君主の側で雑用をする人に、一日に千里を走ることができる名馬を買いに行かせた者がいました。(その雑用係は) 死んだ馬の骨を五百金で買って帰ってきました。君主は怒りました。雑用係が言うには、『死んだ馬 (の骨で) さえ買うのです、まして生きている馬ならなおさら (高いお金で買うと思う) でしょう。名馬はまもなく来るでしょう』と。(そして) まる一年経たない間に、千里の名馬が三頭も来ました。今、王様が必ず賢者を招きたいと思うのならば、まず私から始めてください。まして隗〔＝私〕よりすぐれた者が、どうして千里の道を遠いと思うでしょうか、いや、思わないでしょう」と。

そこで昭王は隗のために新しく邸宅を築いて、隗を先生として隗に師事した。そこで賢者が (我先にと) 争って燕の国にやって来た。

二

武帝の治世の天漢元年、護衛にあたる司令官である蘇武を、匈奴に使者として送った。匈奴の王が蘇武を降伏させようと思った。(蘇武は降伏しなかったので、匈奴の王は) 蘇武を閉じ込めて大きな地中の穴ぐらの中に置いて、決して飲食をさせなかった。蘇武は雪と毛織物の毛とを噛んで、合わせてこれを飲んだ。数日経っても死ななかった。匈奴は不思議な力を持っている者と思って、蘇武を北海のほとりの人がいない所に移して、雄の羊を飼わせて言うには、「雄の羊が子羊を産んで乳を出すようになったら、そこで漢に帰ることができるだろう」と。

昭帝の治世の始元六年、蘇武は匈奴から帰還した。蘇武は初め北海のほとりに移されると、野鼠が取り込んだ草の実を掘って、これを食べた。寝るときも起きているときも、漢の天子から授けられた使者としての印を持っていたので、その旗印に付いていた旄牛の尾の毛がすべて抜け落ちた。(降伏した) 李陵が蘇武に言うことには、「人生は朝露のようだ〔＝はかない〕、どうして自分からこのように苦しんでいるのか」と。李陵と衛律とは匈奴に降伏し、二人とも豊かで身分も高くなっていた。衛律もまた何度も蘇武に降伏することを勧めた。結局 (蘇武は) 承知しなかった。

（蘇武とは違うまた別の）漢の使者が匈奴に来た。匈奴が偽って言うには、「蘇武はすでに死んだ」と。漢の使者はこれが嘘だと知っていて言った、「天子が漢の長安にある庭園の中で狩りをして、雁を得た。足に絹に書いた手紙があり書いていた、蘇武は北海のほとりで生きている」と。匈奴は隠すことができなかった。そこで蘇武を帰らせた。

蘇武が匈奴に留まること十九年間。始めは男盛りのときに（漢を）出たが、帰還するときには顎ひげと髪の毛がすべて真っ白であった。（昭帝は、匈奴に長く捕らえられて事情に詳しい蘇武を）少数民族対策にあたる官に任命した。

第20講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「与」の読みの問題で返り点がついていれば、「と」の可能性が高い。文脈上も「と」で訳してみておかしくないのでエが正解。ちなみに、「与二～一倶ニ」は「～と倶(とも)に」と読む。

② 「如此」は「かクノごとシ」と読み、「このようだ」の意味。よって、正解はイ。

③ 「雁書」の意味は、「手紙・便り・書簡」。よって、正解はア。

〔解答〕

①　エ　②　イ　③　ア